

オンライン授業を行うために 概要編

北星学園大学
総合情報センター
2020.4.21
ver 2.0

はじめに

- 本学では前期中の全授業が非対面授業での実施となりました。
 - 遠隔授業（オンライン授業）はその方法の一つです。
- この「概要編」は、講義動画を活用してオンライン授業を行う方法を概説するものです。
 - 動画以外にも音声のみの教材、文字と静止画のみの教材での授業も十分に考えられます。
- ver2.0：内容を最新の情報に変更しました（4/21）

授業として認められるためには？

- ①または②の場合オンライン授業は「授業」として認められる

① 同時かつ双方向の場合

- Zoomなどを使った、同期型（授業時間と同時）の授業

② 各授業回の終了後すみやかに、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行い、学生等の意見の交換の機会が確保されている場合

- MoodleやYouTubeなどを活用した、非同期型（授業時間とは違う時間での受講もあり）の授業
- 映像だけを見せて終わりというのは授業として認められない

【参考】平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件）等の一部改正（平成19年文部科学省告示第114号）




オンライン授業の質保証

- どの方法でも各授業回の到達目標を明確にし、到達度を測り、教員がフィードバックすることが大切
 - まずは各回の到達目標を明確にすることが大切
 - 「〇〇を説明できる」など、学習者の認知の外化を促し、測定と評価が可能な目標を設定する
 - 「〇〇を理解する」という測定と評価が不可能な曖昧な表現はNG
 - テストやレポートなどを活用し、その到達度を確認する
- 出席確認の方法や課題の内容等、実際の授業実施に際しては各教員の工夫が必要
 - 学生第一、学生に不利益にならないような工夫
 - 通常の授業とは進め方が異なる

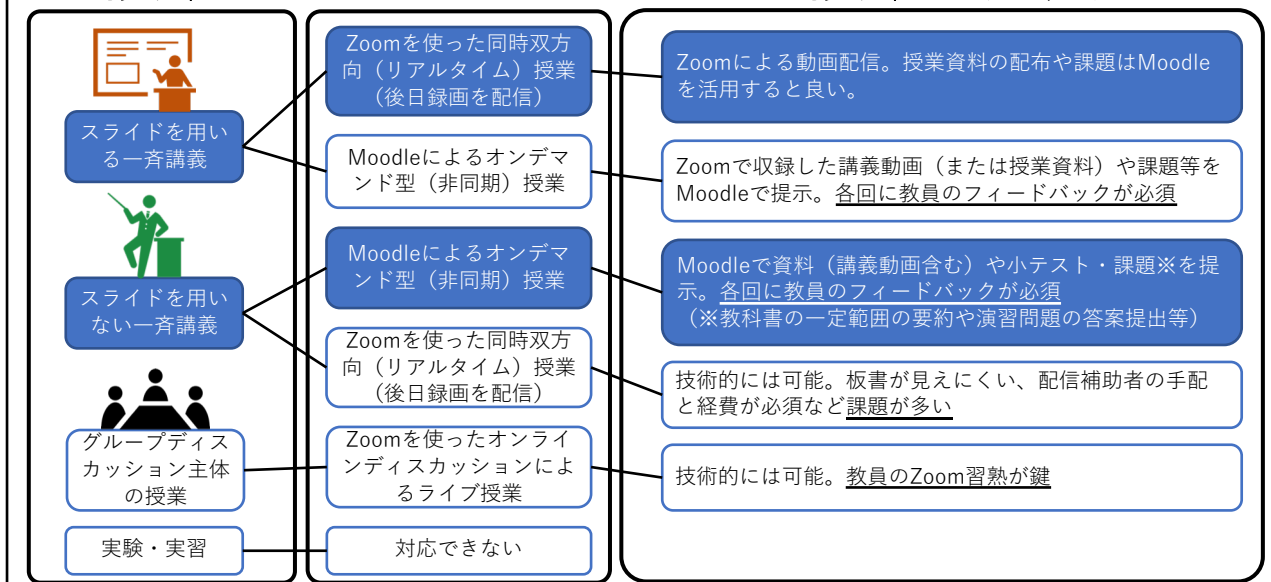
その他の注意点

- 学生への配慮の必要性
 - 学生の受講環境の確認と整備
 - 学生個人のデータ通信容量（Zoomは90分で約0.5GBのデータ通信容量）
 - PCがない学生への対応（情報実習室の活用含めて考慮する必要あり）
 - 課題の量や内容などの確認
- 著作権に注意
 - 他者の著作物をネット上に掲載することは公衆送信権の侵害にあたる
 - 4月28日よりオンライン授業であれば公衆送信が可能となったが、制約がかなりある点に注意。

本学で利用可能なシステムについて

- Zoom (ズーム) 
 - オンラインでセミナーや会議をするためのサービス
 - 参加だけなら登録不要：主催者（ホスト）はアカウントが必要
 - 授業1回あたり500名の学生がアクセス可能、時間無制限、回数無制限
 - 5月以降は有料アカウントを契約するため、300名まで対応可能、時間無制限の予定
- Moodle (ムードル) 
 - オンライン学習管理システム（北星公式LMS）
 - ビデオ、PDF、PowerPointなどのファイルをアップロードし共有可能
 - テストの実施、課題の提出、掲示板への書き込みなども可能
- OneDrive (ワンドライブ) 
 - ファイルを保存・共有できる、Office 365に付属のサービス

授業スタイルとオンライン授業の方法



補足：Moodleによるオンデマンド型授業

- 「板書」のオンライン同時双方向配信は技術的障壁が高い
 - 学習管理システムMoodleを活用した非同期授業がしやすい
- Moodle上で小テストや課題を課し、学生が各授業回の到達目標をクリアしたかどうかをチェックする
 - (例)教科書の指定範囲を読ませたり、教員の説明ビデオを見せたりして、その内容の要約と疑問点を記したファイルを提出させる
 - 学生からの質問を「フォーラム」で受け付ける。ただし、必ずしも個々に回答する必要はなく、類似の質問をまとめて全体に回答する資料を提示することも可
 - 演習問題を提示してレポートとして提出させ、その後迅速にフィードバックする
- 必ずしも「映像」の配信にこだわる必要はない。
 - 音声（ラジオのように）、テキストでの指示なども利用可能

おわりに

- COVID-19の感染終息の見通しは立ちませんが、私たち教職員は、学生の不利益にならないよう、どのように彼らの学びを継続させていけるかを考える必要があります。
- 総合情報センターでは、Zoomやmoodleを使ったオンライン授業についての講習会を適宜開催しています。
- 各学科・部門で選出されているオンライン授業担当者を中心に、皆さんで取り組みを進めてください。
- ご質問、ご意見などあればお寄せください。

本資料は山梨大学 教育国際化推進機構 大学教育センターの資料を一部参照しています。